

平成30年度B日程
学力検査問題

①

国語

注意

- 1 開始の合図があるまで問題用紙を開いてはいけません。
- 2 解答用紙は問題用紙の中に挟んであります。
- 3 問題用紙は表紙を除いて6ページで、問題は一から三まであります。
- 4 開始の合図があったら、まず、問題用紙および解答用紙の所定の欄に
受検番号を書きなさい。
- 5 答えはすべて**解答用紙の指定された欄**に書きなさい。

受検番号

受検番号

□ 次の(一)～(五)の問いに答えなさい。

(一) 次の1・2の文の——線部の漢字の読みがなを、それぞれ書け。

1 顕著な変化が現れる。

2 涼しげな表情。

(二) 次の1・2の文の——線部のカタカナを、それぞれ適切な漢字に直して書け。

1 キンペンな学生。

2 成功にミチビく。

(三) 次の行書で書かれたア～エの漢字のうち、楷書で書いたとき、部首が他の漢字とは異なるものを一つ選び、その記号を書け。

ア 袖 イ 裸 ウ 補 エ 祝

(四) 「相手に負い目を感じて対等にふるまえない」という意味をもつ慣用句を、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

ア 頭が上がらない

イ 鼻につく

ウ 舌を巻く

エ 息をのむ

(五) 次の詩とその鑑賞文を読み、後の1～4の問いに答えよ。

著作権保護のため掲載していません。

- 1 鑑賞文中の——線部1の「竹」の言葉が連続して登場するとても有名な詩です」を単語に区切ったとき、活用のある単語の数を、**数字**で書け。
- 2 鑑賞文中の——線部2に「目の前の風景」とあるが、筆者は、目の前にあるのはどのような風景だと述べているか。「風景」の形になるように、内に当てはまる部分を、鑑賞文中から**十字**でそのまま抜き出して書け。
- 3 鑑賞文中の——線部3の「あたかも」と同じ品詞が使われている一文を、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。
- ア 空の星が光り続けていた。
 - イ もし雨が降ったら読書しよう。
 - ウ ああ、花が美しく咲いている。
 - エ それから散歩に出かけた。
- 4 詩の中で用いられている表現について説明した文として適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。
- ア 竹を観察してありのままを描写したことで、写実的で力強い印象を与えている。
 - イ 幻想的な題材である竹を、繊細でまっすぐな存在として擬人化している。
 - ウ 連用形や同じ言葉を重ねて用いることで、詩にリズムを生んでいる。
 - エ 断定的な表現や対句を用いた歯切れの良さが、感動を強調している。

二 次の文章を読み、後の(一)～(五)の問いに答えなさい。

著作権保護のため掲載していません。

(一) 文章中の に当てはまる熟語として適切なものを、文章中から漢字四字でそのまま抜き出して書け。

(二) 文章中の 線部1 に「肉食動物は草食動物とはまったく異なる装置を創り出す必要があった」とあるが、肉食動物が草食動物とはまったく異なる装置を創り出す必要があった理由を、筆者はどのように述べているか。「から。」の形になるように、内に当てはまる部分を、文章中から二十六字でそのまま抜き出して書け。

(三) 文章中の 線部2 に「きわめてデリケートな仕組みが必要だ」とあるが、筆者は、ここで遺伝子の働きについて、どのように述べているか。その内容を、次の 内のように文章に書き改めるとき、 に当てはまる言葉を、文章中の「個体」「生物」の二つの言葉を必ず使って、四十文字以上六十文字以内で書け。ただし、句読点その他の符号も字数に数えるものとする。

生物は、遺伝子集団を形作っている多くの遺伝子の複雑微妙な働き合いによって、あらかじめプログラムされている、きわめてデリケートな仕組みをもっている。この仕組みは、 ために必要なものである。

(四) 文章中の 線部3 の「遺伝子本来のこのような性質」とは、どのような性質か。文章中の言葉を用いて、六十文字以上八十文字以内で書け。ただし、句読点その他の符号も字数に数えるものとする。

(五) この文章で述べられている内容と合っているものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

ア モンシロチヨウは視覚が発達しており、人間にとっては見ることのできない紫外線が見えていてというように、生物はそれぞれに自分の世界を構築して生きているが、人間だけはそれに関係なく、すべての生物の世界と関わりながら暮らしている。

イ モンシロチヨウが外界を認知できるのは、紫外線を見ることができからであり、このことによつてオスがメスを見つけだすことができるように、人間も含めた生物は、同じ世界を構築する仲間でありながら、それぞれが異なった色を見て生きている。

ウ モンシロチヨウが視覚によつて自分たちに意味のある世界をとらえ、食物や異性を見つける可能性のある場所で生きようとするように、生物は、感覚によつて外界を認知し、その中で自分にとって意味のあるものを選びだして自分の世界を構築している。

エ モンシロチヨウが視覚によつて外界を認知するために植物を意味する緑色の中でしか生きてゆけないように、生物にとっては感覚に従つて生きることが非常に重要で、それぞれの生物がそれぞれの世界の枠から出ないように自分の領域を守っている。

三 次の文章を読み、後の(一)～(三)の問いに答えなさい。

筑紫に、なにがしの押領使などいふやうなる者のありけるが、土大根をよろづにいみじき薬として、朝ごとに二つづつ焼きて食ひける事、年久しくなりぬ。ある時、館の内に人もなかりける隙をはかりて、敵襲ひ来りて、かこみ攻めけるに、館の内に兵二人いで来て、命を惜しまず戦ひて、皆追ひ返してげり。いと不思議に覚えて、「日ごろここにもものし給ふとも見ぬ人々の、かく戦ひし給ふは、いかなる人ぞ」と問ひければ、「年来たのみて、朝な朝な召しつる土大根らに候」といひて失せにけり。

深く信をいたしぬれば、かかる徳もありけるにこそ。

(『徒然草』による)

(注) 筑紫：現在の福岡県あたり。

押領使：地方で反乱の鎮圧や盗賊の逮捕などに当たった役人。

土大根：だいこん。 よろづにいみじき薬：何にでも効くすばらしい薬。

館：外敵を防ぐ設備をしてある武家の屋敷。 隙をはかりて：すきをねらつて。

追ひ返してげり：追ひ返してしまった。 ものし給ふ：いらつしやる。

年来たのみて：長年あなたが頼りにして。 信をいたしぬれば：信仰していたので。

徳もありけるにこそ：善行の結果として与えられる恵みもあつたのであろう。

(一) 文章中の——線部の「食ひける」を現代仮名遣いに直して、——線部全部をひらがなで書け。

(二) 筆者が考えを述べている一文を文章中から探し、その初めの五字をそのまま抜き出して書け。

(三) この文章の中で述べられている内容と合っているものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

ア 筑紫のなにがしの押領使は、大根を万能薬だと思つて、長年にわたつて毎日二つずつ食べていた。ある時、館に敵が襲つてきたが、その敵は彼が頼みとして食べている大根が人となつて現れたものだった。

イ 筑紫のなにがしの押領使は、大根を万能薬だと思つて、長年にわたつて毎日二つずつ食べていた。ある時、館に敵が襲つてきたが、その窮地を救つた二人は彼が日ごろから頼みとしている大根だと名乗つた。

ウ 筑紫のなにがしの押領使は、大根を万能薬だと思つて、長年にわたつて毎日二つずつ食べていた。ある時、館に敵が襲つてきたが、このような窮地さえも大根が救つてくれると信じて助けを待ち続けていた。

エ 筑紫のなにがしの押領使は、大根を万能薬だと思つて、長年にわたつて毎日二つずつ食べていた。ある時、彼しかいない館を襲つてきた敵を追い払つてくれた人々は、もつと大根を食べよと言ひ、去つて行つた。